



北海道 開拓記念館だより

Vol. 43 No. 2 2013年8月号

●リニューアル予告展示会

「北海道開拓記念館から
北海道博物館へ」

●学芸員のこぼれ話

「開拓の村の旧開拓使工業局庁舎が重要文化財建造物になります」

●記念館分野別研究

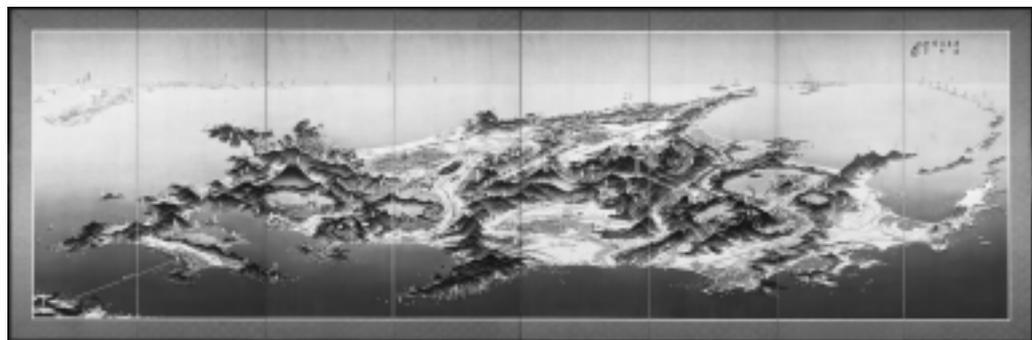
「モノをめぐる価値観の変遷と
その多様性に関する近現代史
—世代間対話の場としての博
物館づくりに向けて—」

●その名は解説員

「今年も『石器をつくる』を
行いました」

●司書のおすすめ本

「民族衣装を着なかったアイヌ—
北の女たちから伝えられたこと」



資料紹介

北海道鳥瞰図屏風 昭和11年(1936) 収蔵番号:41,915

幅6mの屏風に上空から見下ろすように描かれた、ちょっといびつな北海道。昭和11年に来道した昭和天皇のために、絵師・吉田初三郎が手がけたものです。周囲には朝鮮半島と中国大陸、サハリン島、カムチャツカ半島へ連なる千島列島。広範な地域が凝縮されます。画中の線路や道路を辿ると、気分はまるで旅の道中。大らかに聳える羊蹄山、断崖絶壁にトンネルが連なる黄金道路、湯煙が立ち上る登別温泉、石狩炭田の炭鉱町、室蘭の工場群…。豊かな自然と共に、都市や工場、交通の発展する様子が描かれており、変わりつつある当時の北海道の姿を今に伝えています。

(学芸第三課学芸員 山際晶子/美術史)



2015年春、当館は北海道博物館へと生まれ変わります！

リニューアル予告展示会 「北海道開拓記念館から北海道博物館へ」

青柳かつら（事業部展示課学芸員）

2015年春、当館は北海道博物館へと生まれ変わります

北海道開拓記念館は、「北海道」の誕生から100年を記念する一連の事業のなかで、1971年に開館しました。今日まで42年の間、道立の総合歴史博物館として、道内外の多くの方たちが北海道の文化や歴史、自然について理解を深める機会を提供してきました。

1992年には常設展示を全面的に改訂するなどしてきましたが、今また、新しい時代の求めに応えられる施設となることを目指し、2015年春、北海道立アイヌ民族文化研究センターと統合して「北海道博物館」（仮称）として生まれ変わります。

北海道博物館では、アイヌ文化の調査研究や展示をより充実させるほか、自然環境との関わりや周辺地域

との歴史的な関係に広く目を向け、多くの方たちに親しまれる博物館を目指します。

この春、当館にてリニューアル予告展示会を開催しました

本年4月27日（土）～5月12日（日）、当館特別展示室にて、リニューアル予告展示会「北海道開拓記念館から北海道博物館へ」を開催しました。この展示会では、北海道博物館の特徴や目指す姿をパネル展示（写真1）したり、過去の企画展ポスター（写真2）などからこれまでの歩みを振り返ったり、主要資料の展示（写真3）を通じて新しい常設展示のみどころを紹介しました。アイヌ文化に関する展示がより充実することを受け、展示室では、アイヌ口承文芸の視聴覚資料（北海道立アイヌ民族文化研究センター所蔵）も

上映し、音声と映像でアイヌ文化の世界を味わっていただきました。

ゴールデン・ウィークをはさんだ開催ということもあり、この展示会では、親子連れを中心に2,296名もの観覧者をお迎えできました。観覧者にご協力いただいたアンケート結果では、2015年春、当館が北海道博物館として生まれ変わることを「今回初めて知った」と回答の方が過半数（約59%）を占めました。この展示会の開催により、新「北海道博物館」について、いち早く知っていただくことができました。また、アンケート結果によると、「北海道博物館に特に期待すること（複数回答可）」として、『北東アジアの中の北海道』、『自然と人との関わり』等の視点の導入、『来るたびにどこかが違う』展示などによって常設展示がよ



写真1 北海道博物館イメージパネル



写真2 過去の企画展ポスター



写真3 主要展示物の紹介（注 写真1～3は、道北地方での巡回展の内容とは異なります）

くなること（約54%）」と「アイヌ民族文化研究センターとの統合等によって、アイヌ文化に関する調査研究、展示会などが充実すること（約43%）」が多数を占めました。こうしたご意見も反映しながら、今後、北海道博物館へのリニューアル作業を進めていく予定です。

この秋から、道北地方にて巡回展示会を開催します

本年9月～平成26年2月、道北地方の博物館・資料館等（下記の6施設）にて、リニューアル予告展示会「北海道開拓記念館から北海道博物館へ」を開催いたします。この事業は、巡回型の展示会と普及講座の2つからなり、この春に引き続き、北海道博物館の目指す姿やこれからの活動について、今回は特に道北地方在住の皆様を紹介することを目的としています。

展示会では、北海道博物館の特徴を紹介するパネルを中心に、新しい常設展示のみどころとなる複製資料などを展示して、観覧者の皆様に北海道の歴史・文化のエッセンスをお伝えします。

普及講座では、子供向けの体験学習や学芸員による専門的な講座を開催して、参加者の皆様を楽しみながら学習できる機会を提供します。体験学習講座の内容は、土偶づくり（写真4～5）、消しゴムハンコづくり、昭和期の懐かしい暮らしの道具の体験、そしてアイヌの伝統的な狩猟道具の体験などを予定しています。開催館毎の講座の開催日や内容など詳細は、決まり次第、当館ホームページ等でご案内します。どうぞご期待ください。

なお、この事業は、平成26年度も引き続き、道内の他の地域を巡回す

ることを計画しています。



平成25年度 リニューアル予告展示会「北海道開拓記念館から北海道博物館へ」開催のあらまし

◇開催場所と開催期間：

苫前町郷土資料館・考古資料館

平成25年9月7日(土)～23日(祝)

小平町文化交流センター

平成25年10月1日(火)～25日(金)

礼文町郷土資料館

平成25年11月2日(土)～17日(日)

名寄市北国博物館

平成25年11月29日(金)～

12月15日(日)

士別市立博物館

平成25年12月25日(水)～

平成26年1月26日(日)

オホーツクミュージアムえさし

平成26年2月1日(土)～28日(金)

◇開館時間・休館日：

開催館の開館時間・休館日に同じ
(詳細は、当館HPを参照ください)

◇観覧料：無料

◇主催：北海道開拓記念館・北海道立アイヌ民族文化研究センター

◇共催：枝幸町教育委員会・小平町教育委員会・士別市立博物館・苫前町郷土資料館・名寄市北国博物館・礼文町教育委員会

◇後援：北海道博物館協会、道北地区博物館等連絡協議会



写真4 体験学習講座「土偶づくり」のイメージ



写真5 「土偶づくり」完成品



開拓の村の旧開拓使工業局庁舎が 重要文化財建造物になります

小林孝二（学芸第二課学芸員／建築史）

本年5月17日、北海道開拓の村に復元されている旧開拓使工業局庁舎を国の重要文化財建造物に指定することが文部科学大臣に答申されました(原稿執筆時点)。まわりくどい書き方で恐縮ですが、小誌の発行時には官報告示を経て正式決定していることと思います。

重要文化財建造物の指定基準としては大きく以下の5つの基準があげられています。

1. 意匠的に優秀なもの
2. 技術的に優秀なもの
3. 歴史的価値の高いもの
4. 学術的価値の高いもの
5. 流派的又は地方的特色において顕著なもの

旧開拓使工業局庁舎は、工業局工作場の現存唯一の遺構であると同時に、寒冷地建築を模索した工業局営

繕課の業績を示す建物としての歴史的価値が高い評価を受けたものです。

旧開拓使工業局庁舎は札幌市中央区大通東2丁目にあり、1969(昭和44)年に解体、1979(昭和54)年に北海道開拓の村に復元されました。

開拓使は、札幌本府の建設資材供給を主な目的として1871(明治4)年創成川の東側に広大な工作場を設置して札幌開拓使庁営繕掛が所管し、営繕掛は1873(明治6)年に開拓使工業局に改組して明治初期のインフラ整備を主導しました。旧開拓使工業局庁舎は1877(明治10)年4月14日に着工、6月23日に竣工しました。今から136年前になります。

設計は工業局営繕課御用掛の安達喜幸(1827~85)が主導したと考えられています。安達は東京府芝田町(現在の港区田町)出身の大工で、

主席技術者であった旧幕臣の岩瀬隆弘(明治6年末に完成した開拓使本庁舎建設を主導)が1874(明治7)年春に東京出張所へ移って以降、開拓使の洋風建築の建設に主導的役割を果たしたと考えられています。工事は二代目中川源左衛門ら8名が請負い、工費は1500円と伝えられます。

建築後数年の内に正面玄関部分を2階建てに増築しています。

建物は1933(昭和8)年に南東方向に曳家して正面を当初の西面から南面に変え、窓の増設や増築など改造されていましたが、解体時の調査や創建時の設計図書・資料・古写真をもとに創建時に復元されました。

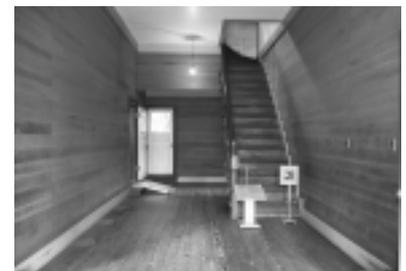
復元された庁舎は木造2階建、寄棟屋根、正面に切妻屋根の玄関ポーチが付きます。小屋組はキングポスト・トラス(梁の中央に真東:「キ



復元された庁舎全景



玄関ポーチの破風・持送り



建物中央の廊下兼階段室



正面玄関廻りの装飾



窓の布製日除けも復元しました



南面窓から見える南一条交番

ングポスト」がある洋風小屋組）構造。外壁は定規柱（下見板の隅を押さえる太い柱）付下見板張で、胴蛇腹（1・2階の壁を区切る装飾）、軒下のパネル（鏡板）、持送り（軒先を支える装飾）、軒蛇腹（帯状の装飾）等の装飾があります。窓は上下窓で、窓上には1階は三角ペディメント（三角形の装飾）、2階は刳型（曲面に刳った装飾）付の雨押えが付きまします。ちなみに三角ペディメントはこの建物以降使われなくなります。

主屋屋根の両端と玄関屋根には棟先飾を付け、玄関ポーチは持送りとレース模様の破風板で飾っています。1階は中央が通り抜けの廊下兼階段室、その左右に執務室を配置し、2階は階段室とワンルームの執務室です。これらのデザイン・平面構成はともに同時代の米国木造住宅に流

行したスタイルといえます。開拓使は、御雇外国人として多くの教師・技術者を雇いましたが、建築を専門とする技術者はいませんでした。一方で、同時代に米国で盛んに刊行された建築雛形書（パターンブック）を多数所蔵していました。設計にあたっては御雇外国人の助言やこれらの建築書を参考にしながら米国風の木造建築を習得していったと考えられ、現存する工業局旧蔵の建築関係書籍には、工業局庁舎を初めとする洋風庁舎・官舎建築の平面構成や装飾の手本となったと考えられる図面を多数確認出来ます。

明治期の洋風建築といえば旧札幌農学校演舞場（時計台）や豊平館を思い浮かべる方が多いと思いますが工業局庁舎はこれらに先立つ明治10年の初夏に完成しています。そして「時計台」や豊平館はこの庁舎の中で設計され建設に移された事になりま

す。庁舎完成2年後の明治13年初冬、西を向いた工業局庁舎の窓からは、右前方に「時計台」（北2条西2丁目あたり、現在よりは1街区ほど北東、1906年現在地へ移設）、正面には創成川を隔てて、出来たての豊平館（北大通西1丁目、1958年中島公園内に移築）や工業局が手掛けた庁舎や官舎群が一望できた事でしょう。今回の慶事が、かつて創成川東岸にあった端正なペンキ塗り庁舎の果たした役割や当時の情景に思いを馳せる契機になればとも考えます。

旧開拓使工業局庁舎が解体された昭和44年は北海道開拓記念館の開設準備は本格化していたものの、野外博物館は構想にすぎないものでした。こうした中で建物の重要性を認識し、緊急調査を行い、解体材を保存し、建物の復元へとつなげた諸先輩の先見性・努力に対して改めて敬意を表したいと思います。

同時に、個人的には、諸先輩から託された宿題が多くある中で、その一つをやっと果たすことが出来たという感慨を覚えているのも、現在のいつわらざる心境です。



解体時の外観



解体時の全景 増築が目立ちます



解体時の1階窓



解体時の窓 2連窓に改造していました



モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史 —世代間対話の場としての博物館づくりに向けて—

池田貴夫（学芸第二課学芸員／生活史）

分野別研究課題「モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史」(2012年度～2015年度) より

常に新しいモノが生み出され更新される現代において、モノの大切さなどに対する子供たちや青年層の意識は低下してきています。一方、高齢者の方々は、現代におけるモノの変化のスピードについていけないという現状があります。モノに対する価値観の隔たりは拡がり、その価値観をめぐる世代間の対話は明らかに稀薄となっているのではないのでしょうか。

一方、近年において、北海道開拓記念館はデイサービスセンター、グループホームなど、多くの介護施設や老人福祉施設にご利用いただいています。高齢者や要介護者の方々が、若い引率者とともに展示室をゆったりと巡り、昔懐かしい道具について、会話を弾ませています。

これらの風景をみていると、冒頭で述べた現代社会の状況を考えるな

らば、博物館の存在意義を改めて感じます。薪ストーブや石炭ストーブ、昔の洗濯機やテレビなどを前に、コミュニケーションが促進されていきます。昔の暮らしに関する情報が若い世代に引き継がれていきます。そして、引率される側と引率する側の互いの理解と絆も深まっていくように思われます。

介護施設や老人福祉施設のみならず、世代間の対話を促進する場として、多くの方々に博物館を活用していただきたいものです。

以上のような観点をふまえ、当館では、平成24～27年度の4年計画で、学芸第二課を中心とした8名の学芸員により、共同研究「モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史—世代間対話の場としての博物館づくりに向けて—」に取り組んでいます。

当館には、家庭生活や社会生活の移り変わり、諸産業や製品の移り変わり、アイヌ文化の伝承やアイヌの生活の変化に関する物質文化資料が多数収蔵されています。これらのモノをめぐる道民のあらゆる思い出やエピソードについての聞き書きを蓄積し、後世に継承していくことが、本研究の第一義的な目的です。

そして、これら道民の語りに耳を傾けつつ、平成27年春の「北海道博物館（仮称）」の開設に向け、子供、両親、祖父母、そして博物館職員といった世代間の対話が促進され、対話をとおして子供と大人による双方向の情報交換がなされるような展示空間づくりに結びつけていきたいと考えます。さまざまな対話の中でモノの大切さなどを振り返り、学び、よりよい未来の暮らしを発見する場として活用いただければ幸いです。



北海道の人々にとって、ストーブはとても思い出深いアイテムだ



出始めのころの電化製品を前に会話は弾むとともに、当館常設展示室



今年も「石器をつくる」をおこないました

越田雅子（解説員）

私たち解説員は、展示をわかりやすく説明し、体験学習をサポートするみなさまの強い味方です！



毎年この時期に行われる考古学講座「石器をつくる」が今年も7月7日におこなわれ、定員いっぱいの参加者で賑わいました。私たち解説員は、このような野外で行われる行事のサポートも行っています。

前日まで雲行きが怪しく室内での

作業になるかと思われましたが、当日は予想以上の好天に恵まれ、木陰にいながら汗が吹き出てくるような一日でした。

そんな中、例年参加の大人たちは手馴れた様子で黒曜石を割っては、石器に適したサイズを鋭い目で吟味していきます。大変そうなのは、おそらく「もっとかんたんだ」と思っていたであろう小学校低学年の参加者でした。うまく石が割れずに口元が次第にとがっていくのがわかります。しかし先生の根気よい説明で、こつをつかむと面白いように上手に

割ることができ、笑顔と歓声に暑さも忘れるほどでした。最後はお気に入りのできばえの石器を手にみんなで記念撮影を行いました。

来年は閉館のため「石器づくり」は行えませんが、次回開催までみなさん「こつ」を覚えていてくださいね。



「民族衣装を着なかったアイヌ—北の女たちから伝えられたこと」

櫻井万里子（情報サービス室司書）



(2013年6月 編集グループSURE)

この本の著者・瀧口夕美さんは、アイヌ民族の母を持ち、阿寒湖畔のアイヌコタンで土産物店を営む家に生まれ育ちました。多くの人がイメージする「純粋」で「伝統的」なアイヌ文化を観光客に紹介することを生業とする一方で、和人と何も変わらない暮らしをしている実際の自分。瀧口さんは、「純粋」で「伝統的」なアイヌ民族がどのような歴史を経て、今の自分に繋がるのかを、母や

祖父らの話から考えていきます。

本の中で語られるアイヌ民族の生活からは、差別され、抑圧されたというだけでは言い表せない複雑な思いや、和人とのかかわり、現代に生きるアイヌ民族の実像が見えてきます。「自分のなかで整理がついていない問題は、手放さずに抱え続け、考え続けることでしか、解決できないのだと思う」という言葉が深く印象に残る一冊です。

北海道開拓記念館 長期休館のお知らせ

当館は施設改修のため下記の期間、休館いたします。

◆休館期間：2013(平成25)年11月4日～2015(平成27)年春

詳細につきましては当館のホームページ (<http://www.hmh.pref.hokkaido.jp>) をご覧ください。

北海道の “知” を一つに

素晴らしい北海道の財産を、次世代へ繋げたい

北海道博物館協会のHPが 新しくなりました!!

北海道博物館協会とは、道内にある博物館、科学館、美術館、水族館、動物園等における社会教育活動や博物館活動を推進する組織です。このたび、当会のHP(ホームページ)が新しくなり、皆様にとって、より利用しやすく親しみやすい内容へと生まれ変わりました。

新しくなったHPでは、当会の活動や各施設が発信する最新の記事を見ることができる他に、学芸職員部会が運営するHP「集まれ! 北海道の学芸員」や自然誌博物館ネットワークが運営するHP「北海道の地質と化石の相談室」ともリンクしており、学芸員や専門職員の最新の研究成果や各施設お勧めのイベント等、様々な情報を一度にチェックすることができます。是非、当会HPを利用して生涯学習等に役立てていただければと思います。

◆北海道博物館協会HP：<http://www.hkma.jp>

利用者数

平成24年4月1日～
平成25年6月30日

記念館を訪問された
お客さま

●常設展示室	11,064名
●特別展示室	2,296名
●体験学習室	2,890名
●講座・講演会等	221名

館外での行事や赤れんがを
訪問されたお客さま

●北海道の歴史ギャラリー	90,717名	4月～3月小計	107,188名
		平成25年度累計	107,188名

8～9月の行事

◆講座

「会津藩のカラフト警備」

8月11日(日)13:30～15:30

「戦前・戦後における北海道の記録映画」

9月8日(日)13:30～15:30

「歴史の中の『開道百年』」

9月29日(日)13:30～15:30

◆土曜こども講座

「ガリ版でいんさつ屋さん」

8月17日(土)10:00～12:00

「みんなでつくろう葉脈標本!」

9月14日(土)10:00～12:00

◆体験学習室の行事

「アイヌ民族のくらし

—遊んで 学んで 働いて—

8月18日(日)まで

「子ども日記 —昭和のはじめのくらしをのぞこう—」

8月21日(水)～11月3日(日)

※講演会・講座のお申し込みは、1ヶ月前からお電話011-898-0500で受付します。(受付時間 開館日の9:30～17:00)

※「行事案内2013」がホームページでご覧いただけます。www.hmh.pref.hokkaido.jp/GYOUJI2013/annai2013.pdf

北海道開拓記念館だより Vol.43 No.2(通巻220号)

2013(平成25)年8月1日

編集・発行 北海道開拓記念館

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2

総合案内 TEL(011)898-0466

代表 TEL(011)898-0456

ホームページ www.hmh.pref.hokkaido.jp

◆メルマガ“みゅーじあむ”配信中!◆

行事などの最新の情報をお伝えします。

ホームページから登録いただけます。



携帯サイトはこちら